

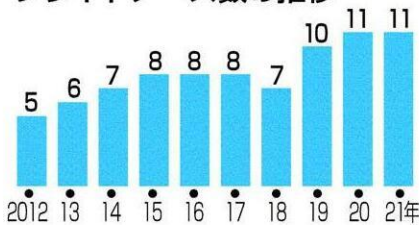


松木 絵里  
副看護師長

来部門で副看護師長を務める松木絵里さんは「突然の事態に患者の不安は大きい。少しでも苦痛を和らげられるように心がけてい

ドクターヘリ(ドクヘリ)に搭乗する看護師「フラインナーズ」は医師による診察・治療のサポートにとどまらず、患者の精神面を支える重要な役割を担っている。山梨県立中央病院高度救命救急センターの救急外

山梨県立中央病院  
フラインナーズ数の推移



# 「フラインナーズ」も常時搭乗 患者の不安和らげる役割

医師と打ち合わせを重ねて  
いるという。

ドクヘリには医師1〜2  
人に加え、看護師も1人搭  
乗する。「緊急要請で患者  
に関する情報は少ないこと  
が多い」と松木さん。目的  
地向かう途中、現場で必  
要な治療について逐次入っ  
てくる情報も踏まえながら

「患者の不安を取り  
除くことも同じくらい大切  
だと思っている」。体をさ  
すりなら「もう大丈夫」な  
どと声をかけ、少しでも安

に乗り込む前に患者と家  
族が会話する時間も設け  
る。それが互いの安心につ  
ながるからだ。

「患者の不安を取り除くことも同じくらい大切だと思っている」。体をさすりなら「もう大丈夫」など声をかけ、少しでも安

あるドクヘリ搬送中に治療

5人体制でスタートした  
フラインナーズ。県立中央  
病院は育成にも取り組み、  
現在は11人でドクヘリの運  
行を支える。初期メンバー  
でもある松木さんは異動に  
伴い一時離れたが2020  
年4月に戻ってきた。

経験を積んだ今も「フラインナーズの担当日は緊張する」と打ち明けつつ「患者が元気になって退院する姿や家族の安堵した表情が励みになっている」と語る。

配慮を怠らない。

患者の家族への心配りも  
忘れない。「搬送先の病院  
に向かう時は落ちていて運  
転して」「運転中に病院か  
ら電話があっても慌てず

11年目の空を飛んでいる。

一方、患者は不慣れなドクヘリに乗り、ごう音で会話もままならない状態。事故などによる外傷の場合、機体の揺れなどで容体が悪化しないように全身が固定され、体を動かすこともできない。突然訪れた事態に緊張した表情を浮かべるケ

心してもらえるよう意識し  
ているという。

「ドクターヘリ10年」  
シリーズは終了します。  
次回は22日に掲載します  
(第2、4木曜日に掲載し  
ます)

緊張した表情を浮かべるケ

状況が許せば、ドクヘ

次回は22日に掲載します  
(第2、4木曜日に掲載し  
ます)